

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和2年7月10日	
所属部局・職	理学研究科（人類進化論研究室）・博士後期課程学生
氏名	野本 繭子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
ガボン共和国 ムカラバ=ドゥドゥ国立公園およびドゥサラ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生マルミミゾウの採食生態に関する調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
令和元年11月16日 ~ 令和2年4月7日 (144日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
ガボン共和国熱帯生態研究所 (IRET)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>博士研究のデータ収集のため、ガボン共和国南西部のムカラバ地域でフィールド調査を行った。出張者は、中部アフリカの熱帯林に生息する野生のマルミミゾウ (<i>Loxodonta cyclotis</i>) の採食選択と環境選択の性年齢差について研究している。これまでに2度の長期調査を行っており、今回の調査では、まだ比較的数据量が少ない11~12月と、2月以降はデータ収集を行い、1月には首都リーブルヴィルにある熱帯生態研究所でDNAの抽出実験を行った。</p> <p>今回のフィールド調査では、前回までの調査に引き続きマルミミゾウの糞センサスと糞の内容物分析、落下果実センサスを行った。またそれらに加え、ゾウによる作物被害について村人への質問紙調査と、糞の崩壊の進行についての観察を行った。</p> <p>質問紙調査では、国立公園に接するドゥサラ村で畑を営む10家族の主に主婦を対象に行った。ゾウは主に夜間に畑を訪れ、作物を食べる。その被害を防ぐため、村人は畑に簡易的なキャンプを設営し、夜はそこに泊まり込む。毎日、前日の夜から朝にかけて、畑のキャンプに泊まったか、泊まった場合は畑周辺でゾウの物音を聞いたかどうか、聞いた場合はその時刻の3点を用紙に記録してもらった。ガボンには40以上の民族が暮らしているとされ公用語はフランス語であるが、プヌとよばれる民族が多く住むドゥサラ村では、プヌ語しか話せない人もいた。そのため、村で集会を開き、プヌ語に通訳をしてもらって調査の目的や方法の理解を図った。ガボン人研究者と協力して、畑の場所を変える10月ごろまで継続した調査を続けられればと考えている。</p> <p>糞の崩壊速度の観察については、調査中に新しい糞を見つけた際、内容物分析のために一部を収集したのちに、ナンバリングをし、調査でそこを通過するたびに見た目の崩壊具合の記録と写真撮影を行った。糞が崩壊するまでの日数は、糞密度から個体密度を推定するのに用いられる。先行研究の値が用いられることも多いが、調査地や季節によって値が異なるはずであるので、本調査地でも調べることによって、より正確な密度推定が行えると考えられる。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

1月には、静岡県立大学の松浦直毅助教と東京女子大学の寺田佐恵子博士とともにガボン熱帯生態研究所でこれまでの成果発表と今後の研究協力についての会議を行った。その後、前回の調査で収集し本研究所に保管していた DNA 試料の抽出実験を行った。抽出した DNA は今後日本へ持ち出し、性別判定などの分析実験を行っていく予定である。



写真 1. ゾウが好む *Treculia africana* の果実



写真 2. ゾウの糞から発芽したマンゴーの実生



写真 3. 質問紙調査の説明会の様子



写真 4. 糞の崩壊過程の観察



写真 5. 今回初めて見ることできた、赤道上に設置されている看板

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本出張には PWS リーディング大学院プログラムと日本学術振興会のご支援を頂きました。調査許可の取得にご協力いただきましたガボン共和国熱帯生態研究所の皆さまをはじめ、日本や現地でサポートして下さった皆さまに感謝申し上げます。

また、今回の渡航は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて本来 6 月 22 日までであった日程を短縮し 3 月末に調査地を後にすることとなりました。計画通り調査を行えなかったのは残念でしたが、不測の事態でしたので無事に帰国できて幸いでした。早期帰国に際してご尽力くださった皆さまに感謝申し上げます。